

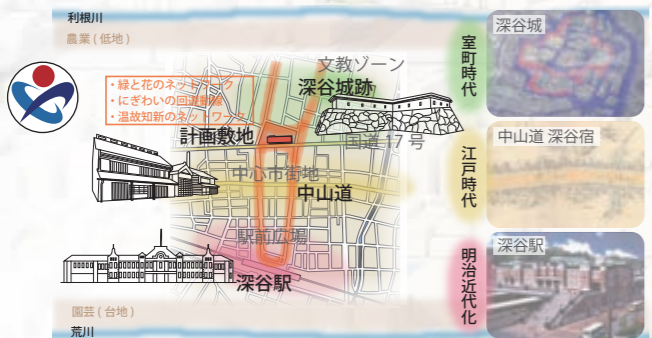
業務の実施方針として、取組方針、実施体制、工程計画及び業務推進にあたっての配慮すべき事項等について記載すること。

「温故知新」故きを温め、新しきを知る』— 深谷市民の心のよりどころとなる安全・安心の市庁舎

利根川や荒川の悠久の流れに抱かれ、豊かな自然の恵みと世界に誇る歴史的資源は「深谷」の魅力そのものです。

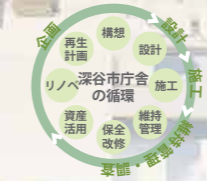
深谷新市庁舎は、「煉瓦のまち深谷」を新たに発展させ、江戸時代の「宿場町」であった歴史的資源の残る中心市街地をつなぎ“新たな回遊性”を生みだす魅力ある交流拠点となります。

「温故知新」の精神を受け継ぎ、花と緑に包まれ、にぎわいや憩いの声があふれる、市民の心のよりどころとなる安心で安全な市庁舎を目指します。



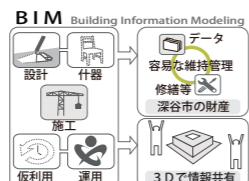
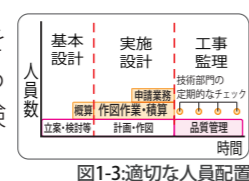
安全・安心のまちづくりのシンボルとなる庁舎づくり 【取組方針】

- ① あらゆる災害に強い 100 年安心市庁舎【安全安心な庁舎】
 - バランスの良い構造をもち 100 年以上長持ちする「安全な防災庁舎」をつくります。
- ② 市民にやさしい庁舎【市民サービスの向上を目指した庁舎】
 - 人口減少など不確実性時代においても、市民サービスを提供し、多くの選択肢をもって対応できる「柔軟性をもった市庁舎」をつくります。
- ③ 永く愛着をもって関わるユニバーサル市庁舎【市民にやさしく、開かれた庁舎】
 - 深谷の魅力凝縮した、市民だれもが「心地よく、使いやすい市庁舎」をつくります。
- ④ 環境と共に生きる市庁舎【自然環境にやさしい庁舎】
 - 市庁舎自らがエネルギーを創り蓄え、循環する仕組みをもたせた、「ゼロエネルギー深谷市庁舎」を目指します。
- ⑤ LCC 低減を徹底する市庁舎【コンパクトでシンプルな庁舎】
 - 設計・建設・運営管理において、建築意匠・構造・工法・環境・維持管理の実用的評価を徹底検証しながら進め、最適な方法で運用し、LCC が少ない、維持管理しやすい質の高い庁舎をつくります。



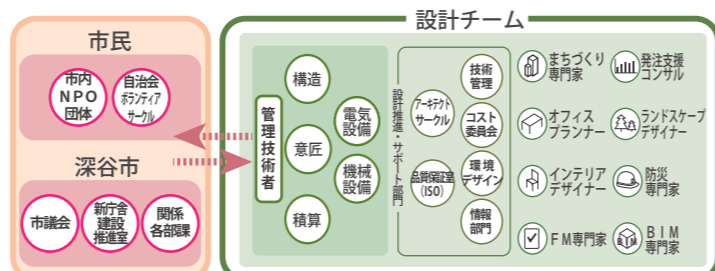
全ての利用者の意見を適切に設計に反映 【実施体制（業務の取組体制）】

- ① 市民と行政とのコミュニケーションを重視
 - 利用者の要望に的確に応えるため、条件整理、課題の明確化を行い、市と対話を重ね、相互理解を深めて設計を進めます。
 - 空間構成を含め利用諸室の配置などを協議を重ね、同意を得ながら柔軟に設計対応を行います。
- ② 的確な人員配置で品質を確保
 - 条件整理や課題の抽出、検討と協議を行う時間を十分に確保し、設計初期から十分な技術者を動員します。
 - コスト調整など、負荷のかかる時期にスタッフ増員などプロジェクト管理を徹底します。
- ③ 確実なコストコントロール
 - 基本設計の初期段階で目標コストを明確に設定し、基本設計で算出する概算を実施設計段階でも繰り返し検証し、コスト管理を徹底します。
- ④ わかりやすいコミュニケーションツールを活用
 - BIM（ビルディング・インフォメーション・モデル）を活用し、CGや模型を用いてわかりやすくプレゼンテーションします。
 - 作成したデータは、工事や将来の増築、増床、改修、設備更新などにも役立ち、深谷市庁舎の生涯アーカイブ（財産）となります。



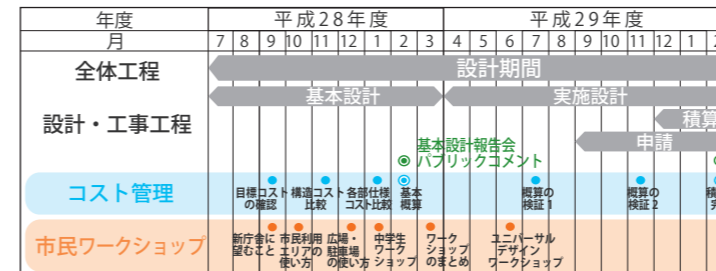
数多くの庁舎実績を活かしたチーム体制 【実施体制（設計チームの特徴）】

- ① 豊富な庁舎設計経験を持つ管理技術者
 - 全国に15以上の庁舎設計実績をもつ管理技術者が、市の担当や関係部局と、迅速かつスムーズに協働し、責任をもって業務を遂行します。
- ② “深谷に根ざした”設計体制
 - 深谷市に生まれ育ち、現在も深谷市に在住している建築（総合）主任技術者をはじめ、深谷市の風土や文化を理解して、庁舎実績の経験豊富な技術者を結集して臨みます。
- ③ 総合力を活かした社内支援体制
 - 社内での「設計推進、サポート部門」などの全社的なサポート体制を構築し、あらゆる視点から設計内容を精査し設計チームを支援します。
- ④ コスト高騰への支援体制
 - 建設物価高騰の中で工事発注をスムーズに行うため、年間数十件の公共工事発注を経験する専門の積算主任技術者が、適切なコストコントロールを行います。



発注者と目標を共有した、適切な工程管理 【工程計画】

- ① 設計作業の効率化とリスク管理
 - 重要な検討項目の決定を基本設計の初期段階に集中させ、先行検討型のプロセスで工程の前倒しを図ります。
 - 設計工期を2ヶ月短縮し、チェック期間のゆとりを持ち、予期せぬリスクを低減します。
- ② 工事期間を短縮
 - 同一形状の基準階平面を活かし、各部材・材料のユニット化とPC床板を検討し、工期短縮と品質確保、適時実勢を調査し、工事工期短縮・コスト削減を行います。
 - 既存の地下躯体を有効活用し、解体工事の縮減、外構・駐車場工事の工期短縮を行ないます。
 - 構造・工法の選定において、構造形式の比較検討を綿密に行い、発注者と目標を共有しながら設計を行ないます。
 - 内装工事は、設備との取り合いを単純化し、工事着手時の事前の調整期間を短縮します。
- ③ 「深谷市庁舎生涯ワークショップ」の提案
 - 設計から開庁後の運営まで、生涯スパンで新庁舎を育てる視点で臨みます。



協働作業で、できるだけ多くの市民意見を反映 【業務推進にあたっての配慮】

- ① 説明会・ワークショップの開催
 - 「情報が見える」設計プロセスで、設計の節目に説明会・ワークショップを開催するなど、市の承諾のもと、可能な限り市の広報等で情報公開し、市民が市庁舎づくりに関わることが出来る企画を提案します。
- ② 関連機関団体との打合せを開催
 - 市民の各サークル・NPO等関連機関団体、学術機関、民間企業など、連携を密接に図り、共有します。
- ③ インターネットの活用
 - インターネットを活用し、ホームページ上で設計の進行状況を広く市民に開示することも検討します。
- ④ 地元の活力を最大限に活かせる設計
 - 内装、家具、外構や植栽など深谷の職人さん、大工さんや市内企業で対応可能な設計とするなど、地元経済への配慮を行い、「トータルマネジメント」を実行します。
- ⑤ 地場産材の活用
 - 瓦、土管、木材など地場産材を積極的に活用します。

